

主体的に学習する児童の育成

～社会科における単元内自由進度学習の手法を通して～

始良市立建昌小学校 教諭 本多 浩輔

目 次

1	研究主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
2	研究主題の設定の理由について・・・・・・・・	2
	(1) 今日的な教育的背景から	
	(2) 児童の実態から	
3	研究主題に対する考え方・・・・・・・・	3
	(1) 「主体的に学習する」とは	
	(2) 単元内自由進度学習を用いる理由	
4	研究で目指す児童の姿と成果指標について・・・・・・・・	3
5	研究の仮説・・・・・・・・	3
6	研究の構想・・・・・・・・	4
7	研究の実際・・・・・・・・	4
	(1) 捉えさせたい内容の整理	
	(2) 学びの指針を位置付けた児童とともに作る学習計画表の工夫	
	(3) 他者を参照しながら、計画・まとめ・振り返りができるシートの活用	
	(4) 学習形態の選択	
	(5) 学習方法の選択（調べる手段の選択）	
	(6) 学習方法の選択（調べた情報を整理する手段の選択）	
	(7) 「やってみたい」を引き出すチャレンジコース（単元終末の発展的な学習）	
	(8) 単元学習後の振り返り	
8	研究のまとめ・・・・・・・・	8
	(1) 研究の成果	
	(2) 今後の展望	
9	おわりに・・・・・・・・	10

参考文献

- 国立教育政策研究所（2023）『PISA2022 のポイント』
- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編（平成 29 年告示）』
- 奈須正裕・伏木久始（2023）『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して』北大路書房
- 小山儀秋・竹内淑子（2022）『教科の一人学び「自由進度学習」の考え方・進め方』黎明書房
- 堀田龍也（2024）『これでできる！個別最適な学びと協働的な学び』さくら社

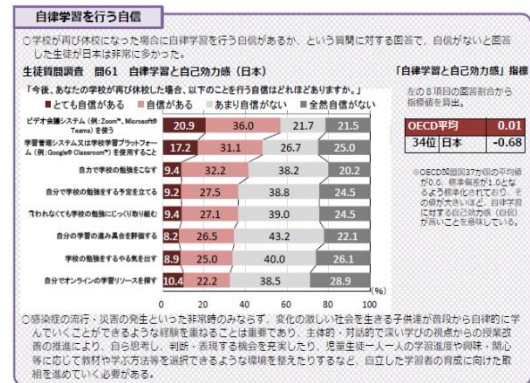
1 研究主題

主体的に学習する児童の育成 ～社会科における単元内自由進度学習の手法を通して～

2 研究主題の設定理由について

(1) 今日の教育的背景から

令和5年の12月に国立教育政策研究所からPISA2022の結果が公表された。日本は数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシーの3分野全てにおいて世界トップレベルの結果であった。一方で「PISA2022のポイント」の16ページには、「今後あなたの学校が再び休校した場合、自律学習を行う自信はどれほどありますか」の問いに対し、各項目で自信がないと回答した生徒が多かった。VUCAの時代と言われる現代で、非常時以外でも自律的に学ぶことがこれまでより一層重要とされている。今回の調査は、高校生を対象にしたものではあるが、小学校においても主体性をもって学習に取り組む経験を積ませていくことが必要だと考える。



【資料1】「PISA2022のポイント」16ページ

(2) 児童の実態から

ア 各調査の結果

A 令和4年度に受け持った5年生児童			B 令和5年度に受け持った5年生児童					
令和5年度 全国学力・学習状況調査			令和5年度 鹿児島学習定着度調査					
	国語	算数		国語	社会	算数	理科	
本校	78.0	73.0	本校	78.0	82.5	81.3	81.3	
地区	70.0	63.0	市	71.4	70.4	77.2	78.6	
県	67.0	61.0	地区	68.6	65.2	74.7	75.4	
全国	67.2	62.5	県	68.4	65.2	74.6	75.4	
令和5年度全国学力・学習状況調査（児童質問紙より） 課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいましたか？			令和5年度 鹿児島学習定着度調査（児童質問紙より） 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。					
	あてはまる	どちらかという あてはまる	どちらかという あてはまる	どちらかという あてはまる	どちらかという あてはまる	あてはまらない		
本校	10.7	66.1	19.6	3.6	18.5	61.1	16.7	3.7
県	27.6	54.8	15.6	2.5	31.2	37.5	25.7	5.5
全国	29.5	52.4	15.6	2.5				
自分に合った教え方や、教材、学習時間になっていましたか。			自分に合った教え方、学習内容、学習時間などになっていますか。					
	あてはまる	どちらかという あてはまる	どちらかという あてはまる	どちらかという あてはまる	どちらかという あてはまる	あてはまらない		
本校	26.1	46.4	14.5	11.6	37.0	54.3	9.7	0
県	39.4	45.8	12.0	2.8	43.6	46.6	8.4	1.5
全国	37.3	45.6	13.3	3.8				

昨年度の全国学力・学習状況調査と鹿児島学習定着度調査の結果である。私自身が令和4年度と令和5年度に受け持った5年生児童の結果である。学力調査については、本校は市や地区、県、全国を上回る結果であり、学力は身に付いていると言える。一方で、児童質問紙を見ると「課題に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいる」の問いに対しては、「あてはまる」と回答した児童が県や全国を大きく下回る結果となり、児童が主体的に学ぶことができていないことが分かった。その理由として、「自分に合った教え方、学習内容、学習時間になっていますか」の問いに対して、「あてはまる」と回答した児童が県や全国を下回る結果となっていることから、これまでの指導で児童が自分の理解度や認知の特性に応じて自分のペースで学ぶという点が足りなかったといえる。

以上を踏まえて、本校の実態で明らかになったのは、学力は比較的高いと言えるが、課題の解決に向けて、「自分で考え、自分から進んで取り組む」ところに課題が見られることである。これは、PISA2022の結果と似た傾向と言える。そこで本研究では、「主体的に学習する児童の育成～社会科における単元内自由進度学習の手法を通して～」という主題と副題を設定し、単元内自由進度学習を用いた社会科の実践を通して、児童の主体性を高めていき、本課題を解決していきたいと考える。

3 研究主題に対する考え方

(1) 「主体的に学習する」とは

- | |
|--|
| A 自主的…やるべきことは明確で、その行動を率先して人に言われなくても自らやること。 |
| B 主体的…何をやるかは決まっていない状況でも、自分で考えて判断し、行動すること。 |

主体的と自主的は、どちらも「自ら行動する」という点では似ているが、意思決定において「主体的」の方が自ら決める範囲が広く、責任もより伴うと考える。そのため「自分で考え、自分から進んで取り組む」という課題を解決するためには、主体性を高める必要がある。主体性を高めるためには、自ら課題を見つけ、解決していく経験を積み重ねる必要がある。そこで「主体的に学習する」とは、自分で課題を設定し、解決の見通しをもち、自分で選んだ解決方法で取り組み、自分の取組を振り返り、次の学習に生かすことと定義する。

(2) 単元内自由進度学習を用いる理由

単元内自由進度学習とは、ある教科・単元の学習のはじめに行う「ガイダンス」とその単元の「まとめの時間」を除いた単元の学習を児童一人一人が学びを進める学習である。学習進度や学習方法を自己選択・自己決定できるため、本研究の定義する「主体的に学ぶ」ための取組として有効であると考え。また、社会科では、学習問題に対して追究の柱をもとに、事実を調べ、社会的事象（具体的知識）を獲得し、さらに中心概念（概念的知識）を獲得するといった一連の学習過程を繰り返し、単元内で学習していくため、1学期から社会科の学習で経験してきた学習過程を児童自らで進めることができると考え、社会科で単元内自由進度学習を行うこととした。

4 研究で目指す児童の姿と成果指標について

本研究で目指す児童の姿と成果指標は以下のとおりである。

- | |
|---|
| (1) 児童が主体的に学ぶことができる。
→「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいますか」の問いに「あてはまる」と回答する児童を単元の学習後に 60%以上 にする。 |
| (2) 児童が自分の合う学びを考えながら、学ぶことができる。
→「自分にあった学び方を選んで、取り組んでいますか」の問いに「あてはまる」と回答する児童を 75%以上 にする。 |

5 研究の仮説

社会科の特質を生かし、課題に対して見通しをもつ場や学習の進度や方法を選択する場、自己の学びを振り返る場を位置付けた社会科の単元内自由進度学習を用いることで、主体的に学ぶ児童を育成することができるのではないかと考える。
--

また、単元終末に「チャレンジコース」として複数の発展的な課題を設定した。これは、自分の興味・関心に応じて、自ら選択して取り組むことができるようにした。このときに、学習した内容を生かせるような課題になるようにした。研究授業で助言をいただき、チャレンジコースに「学び直しコース」を取り入れて、これまでの内容をもう一度練り直す活動も取り入れた。

社会「自動車をつくる工業」学習計画表（8時間）									
		学習内容	調べる視点	重要語句	教科書	資料集	方法	学習形態	名前（ ）
しっかりコース	1	自動車は、どのような部品でできているのだろうか。	自動車	部品	P10, 11	P62, 67	ノート ロイロ	個人	○
	2	主要部品を調べる。	エンジン、トランスミッション、ブレーキ、サスペンション	エンジン、トランスミッション、ブレーキ、サスペンション	P12, 13		ノート ロイロ	個人	○
	3	組み立て工場で働く人は、どのように自動車をつくらせているのだろうか。	組み立て工場	組み立て工場	P14, 15	P63-66	ノート ロイロ	個人 友達 先生	○
	4	製造工場と組立工場は、どのように自動車をつくらせているのだろうか。	製造工場、組立工場	製造工場、組立工場	P16, 17	P68, 69	ノート ロイロ	個人 友達 先生	○
	5	完成した自動車は、どのようにして消費者に届けられるのだろうか。	販売方法、流通経路	販売方法、流通経路	P18, 19	P70, 71	ノート ロイロ	個人 友達 先生	○
	6	新しい自動車は、どのように生み出されているのだろうか。	社会の変化、消費者の願い	社会の変化、消費者の願い	P20, 21	P72, 73	ノート ロイロ	個人 友達 先生	○
	7	車体の安全性能に対する取り組み。自動車をつくらせている人々の安全意識を高めるために、どのような取り組みが行われているのだろうか。	安全性能、安全意識	安全性能、安全意識	P22		ノート ロイロ	個人	△
学習方法 学習形態									
ルールブック評価									

【資料4】学習計画表

(3) 他者を参照しながら、計画・まとめ・振り返りができるシートの活用

単元内自由進度学習を進めていく上で、自ら本時のめあてを立てて、めあてに対するまとめを自分で考え、本時の取組を振り返り、次につなげるという過程が大切となる。児童の中には、自分で計画を立てたり、まとめや振り返りを書いたりするのが苦手な児童がいる。今回は、児童が他者参照しながら、自分で計画やまとめ、振り返りをできるようにするために Google スプレッドシートを活用して、計画・まとめ・振り返りを学級全員が共有できるシートを作成した。

一単位授業のはじめに、計画を立てるときに本時の進捗をチェックし、学習方法や学習形態をプルダウンから選択する。そして、自分のめあてを立てるのだが、このときに、誰が何をすることが可視化され、みんなが把握することができる。そして、各自が追究の視点をもとに調べる活動を行った。

今日の計画									
名前	1	2	3	4	5	6	7	8	方法
○									個人
△									友達
△									友達
△									友達
△									友達
△									友達
△									友達
△									友達
△									友達

【資料5】Google スプレッドシート①

まとめ (めあてに対する答え)	内容が 理解できたか	計画通り 進んだか	学びが あったか	本時のふりかえりと次時にむけて	文字数
「①プレス機のような仕組みで部品を組み立てる工程」の5つの工程で、新しい部品とお客様の要望に合わせて色の変更をしたり、見栄えを良くしようと努力して1台1台丁寧に、作っている。				今回は、5人と自動車を作る工程について調べてみました。2人でやるだけあって入った順番にできていくのが面白かったです。5人でやるのは、1台を作るのに5人分ずつの役割を分担してやるのが大変でした。でも、みんなが協力して1台1台丁寧に作ることができました。次回は、3人でやる予定です。早くに終わることを目指します。次回は、4人でやる予定です。早くに終わることを目指します。次回は、5人でやる予定です。早くに終わることを目指します。	310
①プレス機のような仕組みで部品を組み立てる工程で、新しい部品とお客様の要望に合わせて色の変更をしたり、見栄えを良くしようと努力して1台1台丁寧に、作っている。				今回は、3人でやる予定です。早くに終わることを目指します。次回は、4人でやる予定です。早くに終わることを目指します。次回は、5人でやる予定です。早くに終わることを目指します。	100

【資料6】Google スプレッドシート②

まとめと振り返りもスプレッドシートを活用した。まとめを書くことが難しい児童は、他者参照を行いながら、自分のまとめを書くことができた。また、振り返りは、内容が理解できたか、計画通り進んだか、学び方はよかったかをプルダウンで◎○▲で選択できるようにした。本時の振り返りと次時に向けては、文字入力で記述させた。文字数を表示することで「今日は○○字書きたい」といった目標や「今日は○○字書けた」といった達成感にもつながった。単元が進むにつれて、振り返りの量や質が変化した。また、本時のまとめや振り返りが一覧で可視化されることで、教師の見届けもこれまでよりしやすくなった。



【資料 7】まとめや振り返りを考える場面

以前は、まとめをするときに一生懸命自分で調べたノートではなく、教科書を見ながら書く児童が多かった。今回学習を進めていく中で、自然と自分が調べたノートを見ながらまとめや振り返りを書く様子が見られるようになった。Google スプレッドシートの活用は、友達の書いたものを参照できるよさだけでなく、ロイロノートでまとめたものを見ながら書くことができるよさもあるという児童の声もあった。

本時のふりかえりと次時に向けて	文字数
今回の時間では、45分間で第6時第7時と両方することが出来たので、とても効率よくできた自分の中で思いました。一番効率よくいったのではないのかと思います。資料集の写真教科書の写真、本文、重要語句などの様々な大切なところそして、工夫や努力などを見つけることが出来ました。また、家庭の人（消費者）の手に届くまでの工程そして、自動車で作られている手順などがよくわかりました。次の時間では、チャレンジコースにいくかもしれません。ほかの時間でも自由進捗の学習があるかもしれません。なので、もしあったときにはこのようなまとめ方を活かして進めていこうと思います。そして、この学習でいつも自分たちが当たり前に使っていた自動車がこんなにいろいろな手順で作られているということを知り、そしてとても大変な作業なのに効率よくするためにということや、工夫や努力などもしでいてとても大変だけれど、すごいなあと思いました。自動車は、すごく移動するのが簡単、時間がかからない、便利、などのいいところがあるけれど、その分作るのにはとても大変ということがよくわかりました。明日のチャレンジコースでは、高齢者に優しい車などを調べたり、自分で考えてみたりして調べて出てきたら、ノートがロイロにまとめておじいちゃんやおばあちゃんに知らせたり、こういう車を今開発しているんだと教えてあげたいです。	580

【資料 8】単元終末の振り返り

(4) 学習形態の選択

これまでは、指導者が決めた形態で児童が学ぶことが多かった。児童が主体的に学習に取り組むためには、児童が自分の学習のしやすさや学ぶ目的に応じて学習形態を選択できることが大切である。そこで、今回の単元内自由進捗学習では、児童が学習形態を選択できるようにした。【資料 9】は、児童がさまざまな学習形態で学ぶ様子である。個人で進めたい児童は、個人で進められるようにし、友達と協力して進めたい児童は、友達と進められるようにした。また、支援を要する児童は、先生と一緒に学習を進められるようにした。学習形態は、自分の学びに応じて、単元途中で変更することもよいと伝えた。実際に学習形態を単元途中で変更した児童もいた。【資料 10】の児童の振り返りでは、「自分は一人で学ぶ方が合っている」という記述が見られた。自分で学びを調整しながら、自分の学び方に気付くことができたのである。



【資料 9】さまざまな学習形態

本時のふりかえりと次時に向けて
今回は、グループから離れて一人で書いてみました。全部ひとりではしなきゃいけないで最初は不安でしたが、やり始めると、途中で話しかけられないことがないので、集中することができて私は一人のほうに向いていたのかな、と離れてみて正解だったなと思いました。次回からも一人でしようと思っています。

【資料 10】児童の振り返り

(5) 学習方法の選択（調べる手段の選択）

これまででは、調べる方法を指定して指導することが多かった。しかし、今回は学習形態だけでなく、学習方法も選択できるようにした。【資料 11】は、さまざまな手段で追究している様子である。調べる過程において、調べるツールとして教科書や資料集を使う児童、動画を活用する児童、家で調べてきたノートを使う児童などさまざまである。自分に合ったツールを選択して調べる様子が見られた。また、タブレットの持ち帰りをを行う児童もあり、家庭学習で予定より進まなかった内容に取り組む児童、もう少し内容を深める児童、次時の予習を行う児童などさまざまであった。教師が意図せずとも、自然と授業と家庭学習のシームレス化が図られた。



【資料 11】調べる方法を選択し、さまざまな手段で追究している様子

(6) 学習方法の選択（調べた情報を整理する手段の選択）

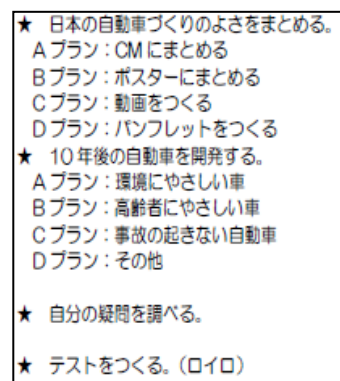
これまででは、指導者が準備したフォーマットで情報を整理していくことが多かった。今回は調べる過程において、調べたことをまとめるときに児童それぞれが、タブレットやノートを選ぶようにした。今回は、タブレットを選ぶ児童がほとんどであった。まとめ方も、【資料 12】のようにそれぞれが思考ツールなどを活用し、自分に合った方法でまとめていた。同じ内容のノートであるがまとめ方は、それぞれ異なる。学習計画表で追究の視点を明確にしていたことで、内容に大きな相違はなく、身に付けるべき内容を自分たちでまとめることができた。



【資料 12】自分に合う思考ツールを選択し、まとめたもの

(7) 「やってみたい」を引き出すチャレンジコース（単元終末の発展的な学習）

学習の意欲を高め、児童が自ら学んだことを生かすために、単元終末には複数の発展的な課題から自分で選択して取り組む「チャレンジコース」を位置付けた。自動車づくりのよさをまとめる児童、10年後の社会の要望や消費者の要望を考え未来の自動車を考案する児童、調べる過程で疑問に思ったことを調べる児童、ロイロノートのテスト機能を使って、復習問題をつくる児童、復習問題を解く児童の姿が見られた。さらに単元の学習問題のまとめをもう一度練り直す児童、前の学習で不十分だった内容を学び直す児童の姿も見られた。それぞれが自分の興味・関心や自分の課題に応じて意欲的に取り組んでいた。



【資料 13】チャレンジコースの内容（学習計画表より）

学習問題に対するまとめをしよう

【単元の学習問題】
自動車づくりにたずさわる人々は、よりよい自動車をたくさんつくるために、どのようにふうや努力をしているのだろうか。

まとめ（自分で考えよう）
組み立て工場では、お客様のために注文に合わせた自動車を一台ずつばやくたくさん自動車を作するために、らくらくシートを使い楽に作業できるようにし、組み立て工場はたくさんの工夫をしている。自動車の部品を作る関連工場では、部品を良い品質で時間通りに組み立て工場までとけられるようにつとめている。日本でも海外に輸出するときには、自動車専用船を使って各国の家庭へと運ばれていく。また、日本の自動車会社は海外にも工場を作り、現地の人々と協力しながら自動車生産につとめている。そして、新しい自動車の開発するときには、お客様の要望や社会の動きに合わせて自動車を開発している。障害を持っている人や高齢者も使いやすい自動車や、新しい技術でとても便利な自動車の開発につとめている。自動車づくりにたずさわる人々は、お客様を思いやり自動車をよくつとめている。

単元のまとめの練り直したもの

Q6 自動車を作る順番が正しいものを選びましょう。

☐ ①ようせつ→②プレス→③組み立て→④とそう→⑤検査

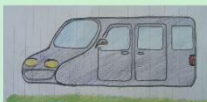
☐ ①プレス→②ようせつ→③とそう→④組み立て→⑤検査

☐ ①検査→②組み立て→③とそう→④ようせつ→⑤プレス

☐ ①プレス→③ようせつ→④とそう→⑤検査→③組み立て

児童が作成した復習問題

10年後の自動車開発
＜汚く自動車＞
ぼくは、10年後に道路のいらぬ浮きながら走ることができ
る自動車が開発されると思います。
理由は、地球の自然がどんどん道路やマンションなどがで
きるにつれて、動物たちの生息場所や環境がどんどん悪く
なっていることが今でも問題になっています。なので、道路
を整備しなくてもかんたんに移動することができるので、タ
イヤを取り替える必要も、環境が悪化するこもなく、自然
も守られていくのでこの自動車が開発されるといい未来にな
ると思ったからです。



10年後の自動車開発

【資料 14】 チャレンジコースで取り組んだものの一部

(8) 単元学習後の振り返り

- 最初は自動車工場ですべて作っていると思ったけど、関連工場で部品を作っているのを初めて知りました。
- いろんな人が自動車工業を支えていることが新しく分かりました。
- 新しく分かったことは、自動車がこんなに工夫されていたり、お客様の要望に応えたりして、ぼくたちのところへ届くということです。
- 車が年々進化していることが分かりました。未来の車を考えるときに、空飛ぶ車は無理だろうなと思ったけど、実際に開発が進められていることが分かってびっくりしました。
- いつも乗っている車がどのように作られているかが分かって面白かったです。
- 自動車づくりの工夫を知ることによって、自動車の見方が変わりました。
- 水素自動車は、環境にやさしいですが、いいことばかりではありませんでした。調べてみると、自動車を作るときに二酸化炭素などを排出するそうです。このことについてもっと調べてみようと思います。

児童に学習を委ねることで、はじめは学習内容の理解や深まり、追究意欲の高まりは保障できるのか不安であった。単元の学習後の振り返りを見ると、児童に委ねても、とらえるべき内容をしっかりとらえていることやさらなる追究意欲の高まりも見られることが下線部からもうかがえる。

8 研究のまとめ

(1) 研究の成果

ア 主体的な学習に関する児童のとらえの実態から

単元の学習前と学習後にアンケートを実施した。結果は以下のとおりである。

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。					自分に合った教え方、学習内容、学習時間などになっていますか。				
	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない		あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
学習前	30.8	56.4	10.3	0	学習前	59.0	30.8	10.3	0
学習後	62.9	37.1	0	0	学習後	80.0	17.1	2.9	0
比較	+30.1				比較	+21.0			

「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいますか」の問いに対して単元内自由進度学習を実施した後に「あてはまる」と回答した児童が 62.9% にまで増え、目標数値の 60% を超えた。また、「自分にあった学び方を選んで、取り組んでいますか」という問いに対して単元内自由進度学習を実施した後に「あてはまる」と回答した児童は 80% にまで増え、目標数値の 75% を超えた。

以上のことから、主体的な学習の部分については成果が見られたといえる。

イ 成果の理由

単元内自由進度学習を行った後の児童のとりえは以下のとおりである。

単元内自由進度学習は、自分に合っていましたか。
・自分に合っている・・・94.3% ・自分に合っていない・・・5.7%
単元内自由進度学習の感想を教えてください。
○ 僕は、まとめなどを書くことが苦手でスプレッドシートなど <u>みんなのを参考に</u> <u>して</u> 書けることがあっていると思います。 ○ <u>自分に合った時間の使い方</u> のできるのでよかったです。 ○ いつもは先生が書いたまとめを写すだけになってしまうけど、今回は <u>自分の言葉</u> <u>で自分で考えてまとめをする</u> ことができました。 ○ 手が止まっている時に、すぐに声をかけてもらえてよかったです。 ○ <u>ペースが遅れている</u> と感じたら、 <u>家にタブレットを持って帰る</u> ことができ遅 れた時間を取り返せるところや、チャレンジコースで <u>課題やまとめ方を選ぶこと</u> <u>ができる</u> ので、自分に合ったまとめ方ができてまとめやすいところ、自分がやり たい課題を選ぶことができ、知りたいことが知れるようになるところが自分に 合っていると感じた。 ○ できないところは、 <u>友達を参考にして</u> 教えてもらったり、できるところは、友 達に教えてあげたり協力できたと思います。何より、 <u>自分のペースでできる</u> とこ ろが良かったです。つまり、教え合い、話し合い、協力、自分のペースでできる ところが合っていると感じました。 ○ <u>友達と意見を共有し、考えるところがよい</u> と感じた。分からないところを <u>自由</u> <u>に聞きあって、解決したりできる</u> ところがよいと感じた。 ○ 自分で調べたり、まとめたり個人作業であることが自分には合っていると思い ます。そして、分からないときには友達と自由に確認しあえるのがよいと思いま す。また、次の学習や課題に向けて取り組みたいときは <u>いつでも自由に進められ</u> <u>るのもよい</u> と思います。 ○ 私は、 <u>大人数で意見を発表し合う</u> ということが苦手なので、 <u>少ない人数で意見</u> <u>を出し合う</u> ということができるところが合っていると感じました。 ○ 一つの授業で <u>終わらなかったときは、次の授業ですることができて</u> 自分に合っ ているなと思いました。 ○ 自分の中でどこをやるかや何をどうやってするかなどを <u>自分で選択</u> するところ や、教科書だけでなく資料集も使う、またはインターネットなどで調べるとい う <u>自分に合った方法で</u> 取り組んだり、 <u>自分達で工夫をして</u> まとめたりすることが でき、スプレッドシートがあることで、学習のまとめ・振り返りをすることがで きるため、 <u>自分の学び方で良かったところあまり上手いかなかったことを反省</u> <u>し、次に活かせる</u> ことができるかもしれないから、自分に合っていると思います。 ○ 自分で今日は <u>どこからどこまで終わらせると決めて</u> 、この単元に取り組めると ころがいいと思った。 ○ 終わらなかったところや、 <u>まだ進めたいところは、家で一人で進めて、取り組</u> <u>めた</u> ところがよい。(自己調整○) ▲ 友達と話せるのはいいけど、自分のペースでしたいと思っても、グループだと できないときがある。 ▲ 先生と学習したほうが学びやすいと思いました。 ▲ 自分でうまく進められない。

「単元内自由進度学習は、自分に合っていましたか」の問いに対して、「合っている」と回答した児童が94.3%だった。感想を見ると、学習形態や学習方法を選択できることがよいという内容が多く見られた。自分で選択できるということが学習意欲につながり、主体的に学ぶことにもつながると下線部からもうかがえる。

以上のことから、取り組んできたことには意味があり、仮説は正しかったと言える。

(2) 今後の展望

ア 各種アンケートから見える課題

単元学習後のアンケートでは成果も見られたが、単元内自由進度学習が「合っていない」と回答した児童もいた。理由は、「友達と学習を進めていると自分のペースでできない」や「自分で進めるのが苦手」という内容であった。学習の途中での自己調整力や主体的に学習することがまだ育っていないことが考えられる。他には、単元内自由進度学習よりも一斉での授業の方がやりやすいというものもあり、まだ主体的に学習するよさを実感できていないことも考えられる。

イ 課題を踏まえた取組の方向性

各種アンケートから見えた課題を解決していくために、一単位授業内での教師の児童への関わりを充実させていきたい。今回は、支援を要する児童への指導を重点的に行ったため、やや不十分であった。机間指導を行い、自分のペースでできていない児童や学び方に困り感を感じている児童が主体的に学習を進められるために、学習支援を細やかにしていきたい。また、主体的に学習することのよさを実感できるように、自分で学習を進めていることや工夫について価値付けていく声掛けを増やしていきたい。

他にも、児童自身が社会科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を身に付けていくことについては、一斉指導と比べると、不十分ではあった。今後の一斉指導で在り方を見直し、社会科の見方・考え方をより意識した授業改善を図っていきたい。そのために、追究する視点を明確にして事実を調べ、調べた事実をもとに比較や関連付け、まとめるといった考え方を働かせる学習をより一層大切にしたい授業づくりを行っていきたい。さらに、個人で学習を進めていた児童の中には、一人で課題意識をもって主体的に学習を進めていた児童もいたが、「孤立した学び」になっていたように感じた。単元内自由進度学習を行う中で、どの過程で協働的な学びを取り入れていくかを今後研究していきたい。

9 おわりに

本研究では、これまでの課題をもとに「主体的に学習する児童の育成」というテーマのもと、社会科における単元内自由進度学習を取り入れ、自分で課題を設定し、解決の見通しをもち、自分で選んだ解決方法で取り組み、自分の取組を振り返り、次の学習に生かすことのできる児童を目指した。学習の様子や単元後のアンケート結果を見ると、単元内自由進度学習は、児童の学びの主体性を高めることに有効な手立てであることが明らかになった。今後もアップデートを重ね、社会科のみならず他教科での実践も行っていきたい。それと同時に、日常の一斉授業の授業改善も必要となる。今回有効であった「学習を選択できること」「振り返りを充実させること」など、日常の授業の中にも取り入れられることがある。本研究を今後の実践に生かし、充実した授業実践を積み重ねていきたい。